

お年寄りにやさしい まちづくり部

出石・コウノトリの郷公園見学

中島 憲啓

さわやかな秋晴れの中、10月12日(土)令和6年度第4回「まち中歩き」に参加しました。今回参加者は30名で、出石城下町散策と兵庫県立コウノトリの郷公園の見学です。

バスで遷喬地区公民館を出発し、約2時間30分で出石に着すると2班に分かれ、それぞれガイドの方の案内で出石城跡、出石家老屋敷、辰鼓楼(しんこうろう)を散策しました。ガイドの方の詳しい解説を聞きながら、「但馬の小京都」と呼ばれる、昔ながらの情緒あふれる雰囲気の街並みを眺めて歩きました。



段を登ると、高台から出石の町が一望でき、さわやかな気持ちになりました。

出石家老屋敷では、江戸時代後期の武士の居室として使用されていたとのことで、大名行列道具が展示されていました。また、一見平屋建てのように見えて隠し階段があり、2階に上がることもできるといった、武家屋敷ならではの工夫がありました。

一方、出石のシンボルである辰鼓楼は、日本最古級の時計台で、明治4年に建てられたそうです。かつては辰鼓楼の上から太鼓で城下町に時を知らせていたとのことで、現在では午前8時、午後1時に太鼓、夕方に梵鐘が鳴るそうです。

たくさん歩いた後は、お楽しみみの昼食タイムです。但馬牛の陶板焼と出石名物の皿そばが付いたセットをいただきながら、みなさんの会話に花が咲きました。



コウノトリの撮影にも成功しました!

昼食後は、出石のお土産を購入し、コウノトリの郷公園へ移動しました。コウノトリの郷公園は、コウノトリを保護・増殖し、野生復帰を促す研究機関です。幸せを運んでくるといわれているコウノトリは、環境悪化などにより昭和46年に日本から姿を消したそうです。そこで昭和60年からロシアから寄贈されたコウノトリを飼育、繁殖し、現在では四七〇羽が各地に生息しています。

今回のまち中歩きは、少し遠出をし、江戸時代の面影を残した出石の城下町の散策でノスタルジックな雰囲気が味わえ、大変有意義な一日となりました。

編集後記

一年間お世話になりました。今年には三年ぶりのオリンピッククイヤーでした。皆さんもテレビの前で日本代表の応援に忙しかったのではないのでしょうか。遷喬地区まちづくり協議会でも新たな企画として健康スポーツ大会が始まり、地区の大人と小学生のペアで卓球大会を楽しみました。



コロナも落ち着き、新しい年を迎え何か新しいことにもチャレンジしてみたいものです。

年末なので折句(あいいうえお作文)っぽいもので今年最後のご挨拶とさせていただきます。

せん 千客万来の味めぐり

きよ キヨロキヨロウロウロ

う うまい芋煮とフェステ

イバル

こう 交通安全あいさつ運動

みんな みんなでまちづくり

かん 感謝の気持ち忘れずに

(文責 西尾 誠)

